

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、高丘圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和3年2月26日（金）9時30分から11時まで
参加者	委員：18人 事務局：1人 その他：11人（高齢者福祉課2人、中区長寿保険課1人、坂の上利用者連携支援センター1人、地域包括支援センター高丘6人、市社協1人）
場所	北部協働センター2階 2・3講座室
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 協議体会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>■前回の振り返り</p> <p>第2回協議体会議報告書参照</p> <p>早い段階で認知症の理解を深め、地域ぐるみで取り組み啓発していく。</p> <p>■認知症を知ろう</p> <p>①浜松市高齢者福祉課から</p> <p>★次期「はままつ友愛の高齢者プラン」について（資料参照）</p> <p>地域包括システム5つの要素＝健康寿命の延伸</p> <p>浜松市は、『予防』に力を入れる。認知症になる可能性があることと認識する。</p> <p>チームオレンジ／単位は決まっていない。なるべく小さい単位がいい。</p> <p>②地域包括支援センター高丘から</p> <p>★事例報告</p> <p>《認知症相談》→家族がどうしたらいいのかわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片付けがうまくできない。 ・同じ物を毎回買ってくるが料理に使われない。 ・燃えるゴミの日に燃えないゴミを出してしまう。 <p>《対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の専門医へつなげ、受診を進める。→受診すれば認知症を遅延する薬が出る。 ・他者との関わりを持つために介護サービス等を紹介する。→要介護認定申請の支援。 ・包括も万能ではないため、本人から拒否されることがある。 <p>☆認知症の両親を抱える家族として</p> <p>妹が看ている。医療従事者だが、両親と喧嘩になってしまう。</p> <p>見た目は認知症だとわからない。5分前のことを覚えていない。</p> <p>ご近所に迷惑をかけることが一番つらい。</p> <p>回覧板を見て回すがすぐ忘れてしまうため大事な要件が漏れ対応できなかったなど。</p> <p>母に聞いても「見てない。何でも私のせいにする。」と怒り出してしまうありさま。</p> <p>ゴミ出し日の間違いで自治会に迷惑をかける。</p>

近隣に両親が認知症だと伝え理解してもらおうかと妹に提案。

本当に認知症のことを理解してくれる人でないと今までの両親の経歴などプライドに傷がついてしまう。それが辛いから言えない。

ある日、隣の家の方が「自分の実母が認知症になって大変なんだ」と話しをされた。妹が両親のことを打ち明けた。周囲の2・3件の方がとても理解してくれた。

両親の様子が何となくおかしいなど分かっていた。

その後、両親の動きを気にかけて、声掛けや支援をしてくれている。

《伝えたいこと》

認知症を知らない人に助けを求められない。

理解していないと、認知症への偏見があり、不用意に話ができない。

包括は万能ではない。助けを求めても相談者すべての対応はできない。

一番は、地域の人に理解してもらいたい。ちょっとした見守りや支援が大事。

認知症にやさしいまちづくり＝『我がごと』として考え理解すること

★認知症徘徊模擬訓練事業実施報告（資料参照）

昨年度と訓練内容を変えて実施。

認知症声掛けマスターの証→声掛け修了者に発行

色々な偏見や誤解をなくして、一人で抱えず「みんな助けて」と言える地域づくりをしていきたい。

③坂の上暮らしの相談所から

★浜松市認証「認知症カフェ」

《法人理念》

お互いに助け合って生活できる地域社会を医療と介護の側面から支援

名称“ココロカフェ幸”

- ・地域住民の誰もが気軽に集える身近なカフェ
- ・認知症に関する相談場所
- ・参加者同士がくつろげる通いの場
- ・楽しめるレクリエーションや講座を企画

④意見交換、質疑応答

協議体委員（高丘自治会）より

徘徊訓練に対して、高丘の場合は自治会だけでなく、民生委員や老人クラブの方々が非常に協力的だった。

抵抗があった点は、コロナ禍でありその方法について最初から反対する方もあり、実施するまでには紆余曲折があった。

話し合いを積み重ねる中で、オレンジシールの登録者も結構いるということで、問題が起こってはいけないと思える限りの協力をした。

前回は大名行列みたいだったのでやり方を変えようと提案。

今年は他の会合と重なり参加していないが、参加した人たちから「やって良かった」との声。

	<p>細かい点では、言葉がけは難しい。どういうふうに認識していったらいいのかなどあった。</p> <p>問題は、認知症をどう理解してもらうか。一般住民にどう理解してもらうか。広報やパンフレット等色々周知しているが、現実には「知りません」の言葉。 <u>認知症を正しく理解してもらえる方法を考え、徹底していく。</u></p> <p>4. 年間計画について 年間 4 回開催予定 了承</p> <p>5. 次回開催予定 了承 令和 3 年 5 月 28 日（金） 9:30～11:00 北部協働センター2階 第 2・3 講座室 *事前打合せ；4月 28 日（水） 10:00～ 福祉交流センター3階団体事務室</p> <p>6. その他</p> <p>7. 閉会 生活支援体制づくり協議体副会長</p>
今後の見通し等	認知症をテーマに地域のつながりを深める。 地域の見守りや支え合いについて検討し合う。